十一月二十一日 新潟市の財団法人みずほ保育園が経営するつくし保育園創立十五周年記念式に参列し、全市公認保育所実現の先駆的役割を果したことに敬意を表する。町が全市公認保育所構想をかためたのは七年後である。市制施行後は重点事業として進め、公認保育所は、建築中の三ツ森保育園を加えて十七か所（へき地保育所二、法人立三を含む）になる。

十一月二十五日 国立教育会館ホールで開かれた全国公民館連合会創立二十五周年記念大会に出席。ご臨場の皇太子同妃両殿下と同じステージ上で記念式典を挙げる光栄に浴す。休憩時間の役員室では、総選挙の話に花が咲く。逮捕された前首相、逮捕した法相ともに新潟県だと、全国から注目されていることを痛感する。

この日開会の県競馬組合議会に欠席したが、送付されていた補正予算書によると、豊栄市に配分される金額は八千万円で、昨年度の一億四千三百万円の半分あまりという激減ぶり。ギャンブルは不景気に関係ないといわれていたが、不景気も長く続くと通説もくずれるか。

十一月二十九日 消防署では毎年増加する救急出動を憂慮し、出動規制を検討していたが、その時期だと判断して規制にふみ切ることにする。救急の必要度が高まっているのでなく、無料のタクシーというような安易な考えで、急を要しない軽症者の要請が増加しているのが実情だ。実態調査によると軽症者が三分の一を超える。救急車は、人命に関し一刻を争う状態のときを主とし、急を要する医師の治療を個人では困難なとき、担架搬送を要する容態で一般の自動車で運べないときなどに出動するもの。二台出動中にさらに一刻を争う重症者がでたり火災があったりしたら、助かるべき人命を失ったり、時期を失して大火になる場合もないといえない。といってもも、要請電話で詳しく容態をたずね、出動すべき否かを判断する暇はないので、市民の良識にまつ以外にない。市政だより三八九号を参照してご協力願いたい。

十二月五日 衆議院総選挙の豊栄市の投票率は、二区の市町村中で第二位、県下で第五位の成績。ただしどりからかぞえてのこと。豊栄市には新来住者が多いとはいっても、日本人が日本の政治家を選ぶに居住地はあまり関係ないと思うがどうだろう。

十二月十日 十二月定例議会に提案する一般会計補正予算の編成を終わる。総額は四十一億六千万円で、六年前市制施行の年の最終予算額十億二千万円の四倍あまりになった。はげしいインフレがあったが物価は二倍弱であり、人口も約一割五分増加に過ぎないことを思うと、大きな市政の拡充ということになる。しかし、市民の要望にはまだ遠いことを思い、一そう努力しなければならないと思う。

十二月十一日 市の共同募金委員会で、今年のしめくくりの会議を開く、日赤募金、赤い羽根募金、歳末たすけ合い募金の成績を例年より落すことなく、台風十七号と酒田大火の見舞金では、他の市町村に例を見ない立派な成績を収めたことに、市民に心から感謝したい。まだ続く不況の歳末にしみじみ思う。災害や交通事故で失った肉親の霊前にある人、さびしい病院や各種施設にいる人、この寒空に不自由な災害仮設住宅に住んでいる人、そうして年を越す人の多いことを偲び、無事で年を越せるわが身をありがたいと思わなければならない。感謝から同情の心が生まれ、奉仕や協力の行動に発展する。豊栄市は、まだその名のように経済的に豊かでないが、豊かな、あたたかい心をもった人の住む市だ。四万市民のみなさんのしあわせを祈りながら、昭和五十一年よ、さようなら。

市長の日誌 石井耕一

やあ!!おげんきですか

早通地区ボランティアグループの

内山　チヅさん
水戸部久子さん
市川　三枝さん

――このコーナーの開設は「十一月。ボランティアセンターまで遠くて。ここならもっと多くの人が参加しやすいと思って」

――ボランティア活動を始めた動機は

「市政だよりをみて」と水戸部さん。

「姉人之友の愛読者で読書会をやっているが、その会で何かやりたいと話しあいボランティアとは何かについて勉強しました」と内山さん、市川さん。

――どんな活動を

「病人用大人のオムツと雑きんを縫っています。簡単だから、だれでもできるんですよ。」

――ボランティア活動をやってみて

「喜んでくれる人があると思うとはりがある。友達もできるし楽しみだわ。だからここへくる日は、家の仕事も能率よくやるようになりました。時間が余ったら何かをやろうではなく、何かをやりたいから時間を作りだすものだと思います」

――これからの計画は

「オムツや雑きん縫いばかりでなくもっとほかのことも、たとえば点訳など。ボランティア活動は特別のものではない、日常あたりまえのこと、自分の家が食事のときは、隣りも食事をしている、そんな気持でやっています」

早通地区ボランティアコーナー開設日、毎月第一、第三水曜。九・〇〇～第二集会場やってみようという方は直接会場へどうぞ。

内山チヅさん、市川三枝さん
住所早通南二丁目
水戸部久子さん　住所早通北二丁目

オムツ作りにはげむ早通地区ボランティアグループの人たち

ふるさと歴史散歩 ～21～ 堀割りまた堀割り その3

宝暦十年（一七六〇）の新発田川う廻工事は、福島潟へ直接水を入れないという目的は果しえたが、新発田川と太田川の水を受けいれるためには川幅が足りなかった。それに直角に近い大まがりがあり距離が長くなってこうばいがゆるやかになった関係などから、上郷村々の耕地がしばしば冠水・湛水の被害をうけた。

新発田藩ではこれらのことも理由にかぞえて、上知村々の返還運動を起した。その結果宝暦十三年には佐々木の上下太田川筋三十か村余りが返された。

これを機会に改善策を検討した結果、新発田川の大曲りの部分からまっすぐに堀り進め、佐々木新田と佐々木上新田との境（いまの堀割）を割って島見前潟に落す流路をつくり、これを武川とよんだ。

天明元年（一七八一）のことである。

武川の水はよく流れ、上流村々の雑儀は去った。が、武川の川床が年々下り、下興野新田を始め八ケ村の用水路の取入口の水のみが覚束なくなった。

一大事である。用水路の死活問題として、武川の廃止を強力に要求した。それらの要求は水原代官所から新発田役所へという、まわりくどい交渉であった。

放置できない緊迫状態となったとき、例によって調停者が立てられて、難航しながら仲裁案をとりまとめ、双方の了解ができた。

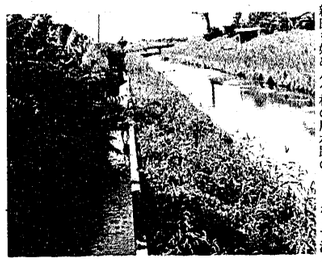
新太田川を佐々木村下から山ノ口砂丘を堀割って下流で武川に合流させること。この川幅八間、長さおよそ八百間（約千四百五十メートル）。この川筋に板堰を設け、その水を引いて八ケ村は用水とすること。この板堰造成に要する経費は残らず上郷負担。後年の修繕費は材木その他は上郷、金具職人日料等は用水組負担。

堤防修繕その他詳細な約束ができ、約に従って工をおえ引渡しは寛政六（一七九四）年三月二十六日であった。この約定は明治二十三年十月七日円満廃棄まで生きてはたらいていた。

かくて浦ノ入と切尾の間の流れは完全に否定され、武川も新規新太田川も多くの修正を加えられたが、いまも静かに流れている。

（写真は砂丘をわって流れる新太田川。左手の三面コンクリートの湯が改善されて真栄郷をうるおす用水路）

――小柳勇記――



みどりの自慢 だいおうしょう

市役所長浦出張所に十一本の松の木があります。そのなかで葉が長く、たれさがった変った一本があります。根まわり、二㍍二㌢、高さは十二・三㍍。その松の「由来」をたずねました。

「大正天皇の即位を記念して植樹した〝大王松〟と聞いていますね」と出張所向いに自転車店をやっている長場凱発（よしのぶ）さん。いまの出張所は旧長場小校舎。「子どものころ、松カサを石ケリの石のかわりにした、女の子はこの松葉でそうりを作ったりグミを編んだり、この学校にはいった人は、それぞれにみんなこの松の思い出は持っていますよ」

「この松は、本家の長場龍太郎（政治家、衆議院議員、一八四九―一九二三）が学校に寄付したもの。長場郡太さんところのリエさん（六十九歳）は、当時、小学生で全校児童が家から土のダンゴを持ち寄って山をつくり、そして御大典のときに植樹したと話していました。ですから樹齢は七十数年くらいですね」龍太郎は松を三本岡山から持って来た。一本は岡新田小、もう一本を自宅に植えたが、結局この一本が生き残ったんですね」

凱発さんは、推測だがとことわって、「犬養毅（木堂＝政党政治家＝一八五五―一九三二）の伝記の中で犬養の生家に大王松があるんです。龍太郎は犬養さんと親交があった。その松を目にし、同じ大王松をふるさとにと思ったのでなかろうかとね」

長場小学校は、昭和二年の二月、火災で校舎の大部分を焼失しました。大王松は風上にあって、焼残ったということです。その後建てられた正面の校舎も、今月末に取壊され、同じ場所に間もなく、新しい長浦地区の老人憩の家が建てられます。しかし、大王松は残されます。

大王松、近ごろは、秋と春の霜のとき茶色に落葉し、枯れるのでは、と心配されています。土盛りをし、手入れをしようと話合われています。

（**だいおうしょう**）　和名は大王松、北アメリカ原産の常緑高木。マツ科、高さ三十㍍内外、葉は長いもので四十㌢にもなりたれる。松は二葉、五葉が多いが、これは三葉。アメリカでは、葉から繊維を取り、敷きぶとん、まくら、クッションの詰物に、日本では観賞用に植えられている。

▶ やがて取りこわされる旧長場小校舎前の大王松

▼ 長さ30センチもある葉と普通の松葉との比較